

花の苑タイムズ

二月三日 賑やかに節分行事実施

利用者様の健康・無事故を祈念

本格的な冬シーズンを迎え、北日本地方・日本海側を中心に大雪をもたらすなど寒波の襲来が日本列島を覆う一方で、天候の影響も受け県内各地では、例年になくインフルエンザが猛威を振っています。

そんな中、高崎花の苑一号館では二月三日、利用者様の健康を祈願して節分行事を行いました。「節分」は、季節を分けることを意味し、もともと立春や立冬などの前



日のことで、いつからか節分は立春の前日をさすようになりました。旧暦では立春が年の始まりであり、立春が新年であれば節分は大晦日にあたり、節分の日に邪気を払い、新年を健康で幸福に迎えたいとの意義を込めたようです。行事では、職員が鬼の役を演じ、利用者様も協力していただき、にぎやかに「福はうち、福はうち」と口ぐちに言っておられました。



平成29年 2月10日 発行
第29号

〒370-0002
高崎市日高町433-1
TEL:027-329-7211

社会福祉法人健生会
特別養護老人ホーム
高崎花の苑広報委員会

「井野川スケッチ」

二月四日の立春の日、暖かな日射しに誘われ、まだ遠い春の足音を聴きに、施設に程近い井野川の川べりを散策して、その風景をカメラに収めました。(写真は井野川で戯れるコガモたちと開花した梅)



地域交流作品展

現在展示中の「切り絵作品展」作者・飯島美さんと切り絵との出会いは約八年前。ある展示会で見た切り絵の作品が気に入ったが手に入れることが出来ず、悔しい思いをしたとのことでした。

そのことがきっかけでならば、自分でと、一念発起したのが、切り絵制作の始まりだそうです。その後、切り絵作家の第一人者で、高崎在住の関口コオさんに教えを受けるチャンスを得、今日に至っています。

現在、月に二度ほど地元様東村で教室を開きながら、創作活動をされておられます。(写真は切り絵作品展と飯島さん)



「歌声カフェ」

一月度交流イベントは「歌声カフェ」と「高林民謡教室」を実施しました。このうち「歌声カフェ」では、佐々木様岡田様姉弟によるキーボード演奏とリードで、懐かしい昭和歌謡曲を元気に歌いました。



季節折々の歌

- 早咲きの また一輪と梅の花 朝の香りは食卓までも
- 初午に 馬の背を借る 悪きつね 三里先までただ乗りをする
- 重ね着を一枚脱いで運動す バットの素振り 汗を拭うや

(秀峰)



三号館建設工事

高崎花の苑三号館建設工事は、一月十七日に関係者を集め上棟式を行いました。これに伴い、工事はいよいよ完成段階に入り、無事故安全管理の下、現在内部の造作工事などが着々と進められています。

